

「存在感のある会社」を目指して 過去・現在・未来を繋ぐあゆみ

住友大阪セメントグループは、100年以上にわたり、セメントの安定供給を通じて社会インフラの整備に貢献してきました。こうした歴史と技術力を基盤に、現在では鉱産品、建材、光電子、新材料など多様な分野へと事業を展開しています。

近年では、環境負荷の低減と資源循環型社会の実現に向けた取り組みとして、次世代の技術にも注力しており、社会課題の解決に貢献しながら、未来を支える企業として更なる成長と企業価値の向上を目指しています。

中長期ビジョン「SOC Vision2035」

2035年の当社グループのありたい姿として定めた「SOC Vision2035」は「環境解決」をそれぞれの事業のキーワードとして、差別化や独自スタイルによる持続的な成長を通じて、社会から必要とされる「存在感のある会社」となることを目指します。

中長期の価値創造実現に向けて → P.14



未来へ繋げる現在の取り組み

豪州セメントターミナルを稼働

セメント海外事業の成長戦略の一環として現地のパートナーと出資した、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州のセメントターミナルは、2021年から稼働しました。現在は当社の主要なセメント輸出先となっており、今後は当社の川下事業への進出等を通じて、セメントターミナルの取扱数量および収益の拡大に取り組んでいきます。



住友大阪セメントグループの事業別概況 → P.26

秋芳鉱山船積バースの延伸

秋芳鉱山は国内有数の高品質かつ豊富な石灰石資源を有し、長年にわたり安定した生産・出荷体制を維持しています。現在は石灰石の安定供給体制の強化を目的に、仙崎港における船積バース(船舶の接岸施設)の延伸工事を進めており、2025年度中の完工を予定しています。これにより、出荷・物流効率の向上による継続的な安定供給を実現します。



戦略の推進・成果および課題 → P.17
住友大阪セメントグループの事業別概況 → P.26

静電チャック(ESC)新製造棟の建設

新材料事業の中核製品である静電チャック(ESC)は、当社独自のナノテクノロジーを活用した半導体製造装置の主要部品であり、1999年より市川事業所にて本格的な生産を開始しました。今後の市場拡大に合わせ、2026年度前半の出荷開始を目途に市川事業所に新製造棟を建設し、生産能力の増強を図るとともに、省力化・自動化を進めていきます。



戦略の推進・成果および課題 → P.17
住友大阪セメントグループの事業別概況 → P.26

沿革

1900~

- 1907 磐城セメント(株)設立
- 1925 日の出セメント(株)を合併
(現 八戸セメント(株))
- 1940 富国セメント(株)を合併(現 栃木工場)

- 1916 大阪窯業(株)セメント部が発足
- 1926 大阪窯業セメント(株)設立

1950~

- 1960 川崎セメント(株)を合併(現 岐阜工場)
- 1963 住友セメント(株)に社名変更
- 1966 赤穂工場を新設
- 1991 新材料事業部が発足
- 1992 光電子事業部が発足

- 1961 高知工場を新設
- 1963 大阪セメント(株)に社名変更

1994

住友セメント(株)と
大阪セメント(株)が合併、
住友大阪セメント(株)が誕生

2050年“カーボンニュートラル”ビジョン「SOCN2050」

当社グループでは、2050年までのカーボンニュートラルの実現に挑戦しており、国内トップクラスの化石エネルギー代替率とリサイクル品使用原単位を実現しています。2030年までの化石エネルギー起源CO₂排出量の削減に加え、2050年に向けては主原料の石灰石によるプロセス起源CO₂排出量も含めた削減に取り組んでいます。

温室効果ガス(GHG)排出量削減への取り組み → P.50



能登半島地震における災害廃棄物の受け入れ

当社グループは2011年の東日本大震災以降、災害廃棄物の受け入れに積極的に取り組んでいます。令和6年能登半島地震においても、災害で発生した木くずを海上輸送で受け入れており、セメント原料や熱エネルギー源として活用することで100%リサイクルを実現しています。今後も災害廃棄物の受け入れを通じて、被災地の早期復旧・早期復興に貢献していきます。



循環型社会への貢献 → P.64

セメント配船計画策定にAIソリューションを導入

従来のセメント配船業務は、多くの制約や調整による負担の大きさが課題でしたが、当社は株式会社ALGO ARTISのAIソリューション「Optium」による実証実験を成功させ、2026年4月よりAIを活用した配船計画の本格導入を目指しています。今後は配船業務の効率化と柔軟性の向上とともにDX推進、コスト削減やCO₂排出抑制にも貢献します。



栃木工場 CO₂再資源化人工石灰石の製造試験設備竣工

2025年4月に「NEDOグリーンイノベーション基金事業 CO₂再資源化人工石灰石パイロットスケール試験設備」が栃木工場の敷地内で稼働しました。年間270tの製造能力を有しており、将来的な実スケールプラントの設計に向けた知見の蓄積を目指しています。今後も本設備を活用し、技術の高度化と社会実装に向けた取り組みを継続していきます。



CO₂再資源化人工石灰石によるCCU → P.54

1995~

- 1997 SiC(炭化ケイ素)製品量産工場を新設
- 2002 新規技術研究所「ナノ・テラ技術センター」竣工
- 2009 バイオマス発電設備の稼働(栃木工場)
- 2010 ごみ焼却灰・ばいじんのセメントリサイクル事業開始(赤穂工場)
- 2012 東日本大震災・広域災害廃棄物の受け入れ処理を開始

2020~

- 2020 2050年“カーボンニュートラル”ビジョン「SOCN2050」公表
- 2023 2035年へ向けた中長期ビジョン「SOC Vision2035」公表

At a Glance

住友大阪セメントの2大事業

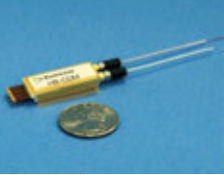
私たちの事業の特徴は2つの大きな柱となる事業体をもっていることです。

建物や橋梁、道路など社会インフラに欠かせないセメントとその周辺領域である「セメント関連事業」と、半導体や光通信などIoT、ICT社会を支える「高機能品事業」。「環境解決企業」をキーワードに、多様なものづくりとサービスの提供を通じて、さまざまな解決策を社会に提供していきます。

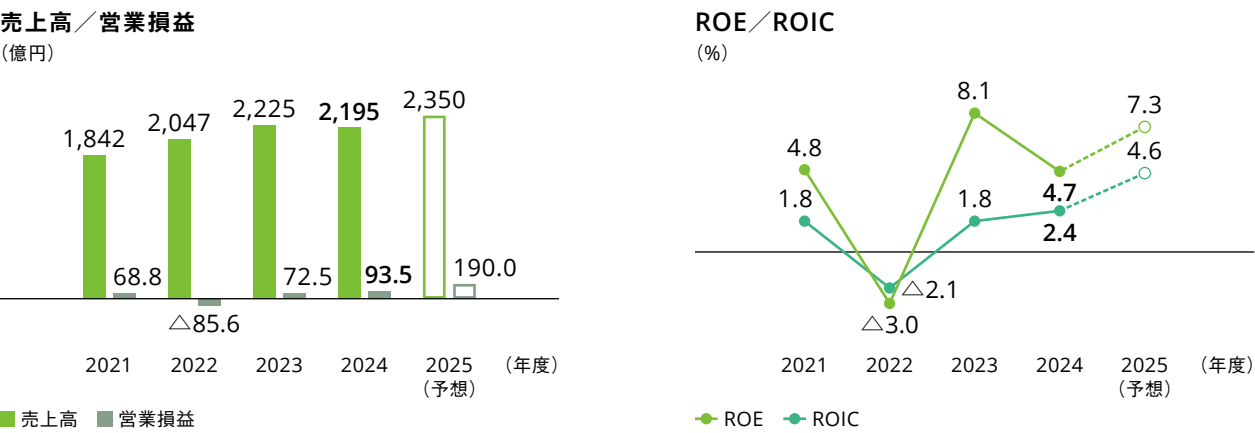
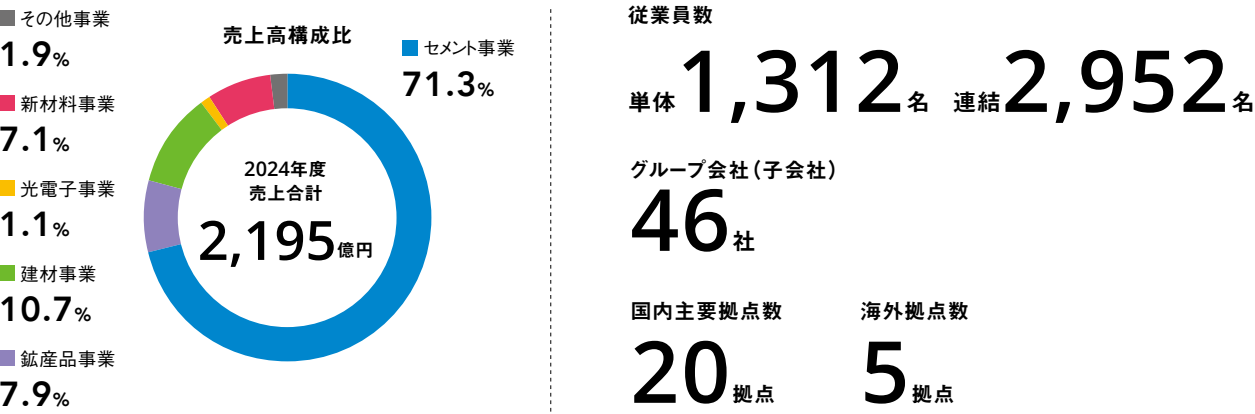
セメント関連事業

	セメント事業	各種セメント、固化材を製造・販売しています。 高度な技術力と徹底した品質管理で社会のインフラ整備に貢献しています。 製造過程でリサイクル品の受け入れを拡大するなど、循環型社会への貢献に積極的に取り組んでいます。
	鉱産品事業	国内有数の規模を誇る良質で豊富な石灰石資源を活かし、工業用原料として、鉄鋼、化学、骨材、セメント原料など幅広い分野に石灰石を供給しています。
	建材事業	コンクリート構造物向け補修・補強材料を製造・販売しています。 セメントで培った経験と技術力を結集し、材料の製造から現場施工までを一貫して請け負う「材工一体」のサービスを提供しています。

高機能品事業

	光電子事業	最先端の光通信技術を活かし、大容量の光通信システムにおける最重要部品の一つである、電気信号を光信号に変換する役割を担うLN変調器などを開発・製造・販売しています。
	新材料事業	独自のナノ粒子製造技術を駆使し、化粧品材料、塗料、抗菌剤などの機能性材料を開発・製造・販売しています。 また、特殊な機能性粒子を使ったセラミックスは、半導体製造装置などに採用されています。
	その他事業	所有する遊休地を活用した不動産賃貸や情報処理サービスなどを行っています。

業績サマリー



非財務情報サマリー

